きょういく通信

幼児教育課
☎0859-54-5219

保育所と小学校の架け橋に

小学校の先生が年長組の〝副担任〟

今年4月から大山西小学校の佐藤康隆（やすたか）先生（御来屋・38歳）が、保育所と小学校の連携を深めるため、所子保育所で長期社会体験研修をしています。年長組の〝副担任〟として保育所に勤務して3か月、熱心に指導されている佐藤先生にお話を聞きました。

大きな声で生き生きと紙芝居を読む佐藤先生。子どもたちも夢中で聞き入ります

Q．今年4月から年長組の〝副担任〟をされていますが、勤務当初に感じたことを教えてください。

佐藤　教員になってから、ほとんど5、6年生の担任をしていたので、最初は言葉のかけ方がわからず、戸惑いました。担任の小原先生にアドバイスをいただきながら、どう言ったら理解してくれるか、考えながら指導をする毎日でした。でも、みんなスポンジのような吸収力があるので、とてもやりがいを感じています。

Q．子どもたちにどのような指導をされていますか？

佐藤　入学時のギャップ（時間を意識した生活ができない、45分間の授業中席に座っていることができない、先生の話に集中できないなど）をなくすため、小学校への見通しを持った指導を心がけています。

一番力を入れているのは、基本的な生活習慣を身に付けること。大きな声であいさつ、返事をすること。友達同士でもありがとう、ごめんなさいが言えることは大切なことです。

また、体、言葉、表現、数的な力をつけてほしいと思っています。

体力づくりのため、園庭の遊具5つと園児の顔写真を載せたカードを、一人ひとりに作りました。鉄棒の前回りができたら、自分で鉄棒の写真の下にシールを貼るというもの。体力向上はもちろん、努力したことによる達成感も味わってほしいと思います。

言葉の面では、今、反対語（多い↔少ないなど）を覚えたり、表現力を身に付ける練習をしています。遠足のときなど「水仙はどんなにおい？」と聞くと、

七夕飾りのつくり方を指導